

2歳児 年間指導計画							
		I 期（4月～5月上旬）	Ⅱ期（5月中旬～8月）	Ⅲ期（9月～10月上旬）	Ⅳ期（10月中旬～12月）	V 期（1月中旬～3月）	
子どもの姿		・進級したことに喜びを感じたり、新しい環境に不安や戸惑いがあったりと、それぞれの思いを持ちながら進級している。 ・気持ちのよりどころとなる保育者に思いを受け止められ、保育者と一緒に身近にある遊びを楽しむ。 ・気持ちが安定してくると、友達にも目が向くようになり、名前を呼んだり、関わろうとしたりする。 ・満3歳児クラスの子ともなど、新入園児の子どもの存在に戸惑いを感じたり、近い場で遊ぶことを楽しんだりと、新たな人への関わり方も個人差がある。	・満3歳児クラスとも混ざりながら遊ぶようになり、満3歳児の子ともや保育者にも興味を持つようになる。 ・友達と関わりが増えるにつれて、物の取り合いなどトラブルも見られるようになってくる。 ・水や泥など、夏ならではの遊びを積極的に楽しむ。ただし、濡れたり汚れたりすることに抵抗があったり、水に対する怖さを感じる子どももいる。 ・2歳児クラスでの荷物の始末の仕方など、身の回りのすることがわかり、保育者の誘いかけて、やってみようとするようになってくる。	・園内行事に参加することが増え、他の学年のしていることにも興味をもつようになり、自分もやってみようとする姿が増えてくる。 ・自分なりにおもしろいと感じたことを繰り返し楽しむ中で、道具ややり方を変えてみるなど、自分なりに少し変化をさせるようになってくる。 ・友達がしていることに興味をもって数人で寄り集まって遊ぶようになってくる中で、たまたま動きや声がそろうことも増えくると、それを喜んで何度も楽しむ。 ・名前を呼び合ったり、歌ったりするなど、クラスのみならずと過ごす楽しさを感じ始めてくる。	・異年齢との関わりにも興味をもち、真似をしたり、関わりを喜んだりする。 ・いろいろな素材や道具を使って制作することを楽しむようになってくる。 ・見立てで遊んだり、自分なりにイメージをもって作ったりする。 ・保育者や友達がいることを真似て同じようなことをしたり、言葉や動作などやりとりしながら遊ぶことを楽しむようになってくる。 ・身の回りのことが少しずつ習慣になって、自分でしようとするようになり、自分でできたことを喜ぶ。	・毎日している身の回りのことが身につき、保育者に促されたり、自分で気づいたりして、自分でできるようになる。 ・保育者の仲立ちのもと、ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを楽しむようになる。 ・保育者がいなくても、2～3人の子ともだけで短い時間遊ぶことを楽しむようになってくる。 ・散歩で出会う人に興味をもって見たり、話しかけたりする子どもが増えてくる。 ・友達同士で思いがぶつかり合うトラブルが増えてくる。	
ねらい	養護	生命の保持	○新しいクラスでの生活の仕方を、一緒にしながら丁寧に伝え、安心して身の回りのことに取り組めるようにする。	○衛生面や安全面に留意しながら、夏ならではの遊びを思う存分できるようにする。	○安全面に留意して、思いきり体を動かして遊べるように環境を整える。	○思い切り体を動かして遊んだり、園外散歩にでかけたりできるように、安全面に留意して環境を整えたり、情報共有を行ったりする。	
		情緒の安定	○一人一人のいろいろな思いや、進級に伴う不安などに細やかに寄り添いながら、信頼関係を築けるようにする。	○保育者との信頼関係の中で、意欲的に遊べるように、丁寧に関わる。	○安心して思いを出せるように、一人一人の思いを丁寧に受け止める。	○一人一人に寄り添いながら、保育者との関係をもとに、安心して園内のいろいろな人に関わりを広げていけるようにする。	
	基盤となる力	興味・関心	○興味関心をもって様々な環境（ひと・もの・こと）に関わる／園生活を楽しむ				
		安心・安定	○園にかかわるすべての人が多様なままに受け入れられ大切にされて過ごす				
		安全・健康	○生理的欲求が、十分に満たされる　○伸び伸びと体を動かし、さまざまな運動を楽しむ　○保育者とともに病気の予防や基本的な生活習慣の形成に取り組み、健康に気をつけて過ごす　○危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、保育者とともに安全に気をつけて行動する　○自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる				
保育・教育	自分から	○新しい環境の中で、好きな遊びを見つけて遊ぶ。	○身の回りのことをしようとする。	○園内での出来事に興味をもって保育者と一緒に関わろうとする。	○身の回りのことを自分でやりたいと思う。	○いろいろなことに意欲に関わり、充実感を得る。	
	創造する	○新しい環境で遊びながら、簡単な仕組みがわかり、何度も試すことを楽しむ。	○面白いと思ったことを繰り返し楽しむ。	○保育者と一緒に遊びを面白くしようとする。	○自分の好きな遊びの中で、新しいアイデアや方法を思いつく。	○思いついたことや考えたことを工夫しながらやってみようとする。	
	人とともに	○新しい保育者に親しみ、信頼を寄せる。	○満3歳児クラスの保育者や子どもに興味をもつ。	○保育者や友達と動きや声で気持ちが通じ合うことを楽しむ。	○友達と簡単なやり取りをして遊ぶことを楽しむ。	○友達と同じことをしたり、簡単なイメージを持って遊ぶことを楽しむ。	
内容		・新しい環境に慣れ、保育者や友達と一緒に楽しく食事をしたり、安心して眠ったりする。 ・保育者に介助されながら、着替えたり、トイレ（便器）で排泄しようとしたりする。 ・新しい担任に思いを受け止められたり、一緒に遊びながら楽しさを共有したりして、信頼関係を築いていく。 ・クラスの友達と一緒に安心して過ごす。 ・新しい環境に慣れ、好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ・自分なりに仕組みをわかりながら、身近な遊具で遊ぶ。（ブロックや線路の繋げ方、転がす、落とす等） ・散歩や戸外遊びなどを通して、虫や草花など身近な春の自然に触れたり、暖かな春の空気を感じたりしながら遊ぶ。 ・保育者に親しみをもって挨拶したり、言葉を交わしたりする。 ・好きな絵本を保育者と一緒に楽しむ。 ・歌や手遊びを見たり聞いたり、自分もやってみようとしたりする。	・保育者と一緒に着替えや排泄、荷物の始末をしながら、自分でできる部分をしてみようとする。 ・汚れたら着替える、食事前後に手や口を洗うなど、身の回りを清潔にしようとする。 ・満3歳児クラスの保育者や子どものしていることに興味をもって、見たり、自分もやってみようとしたりする。 ・水や泥などを使って、夏ならではの開放的な遊びを感覚豊かに楽しむ。 ・身近にあるいろいろな道具を使って遊ぶことを楽しむ。 ・操作して起きる事象や、物そのものの性質や仕組みに面白さを感じて遊ぶ。 ・保育者や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり話したりする。 ・水、砂、土や粘土、紙など様々な素材に触れて遊ぶ。 ・繰り返しや簡単なストーリーの絵本を楽しむ。	・簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・戸外でのびのびと体を動かして遊ぶ心地よさを感じる。 ・他のクラスの子どもたちがしていることに興味をもって見たり、自分もやってみようとしたりする。 ・興味を惹かれる出来事が起きている場所に、保育者や友達と一緒に行ってみたい、その場所で遊んだりする。 ・友達を遊びに誘ったり、友達がしている遊びに入ろうとしたりする。 ・友達と同じことをしたり、動きや声がそろうことで面白さや気持ちの通じ合いを感じる。 ・運動用具や遊具などを使って、保育者と一緒に遊び場をつくる。 ・自分なりにしたいことや、嫌なことなど、簡単な気持ちを言葉で表そうとする。 ・保育者や友達と一緒に、声を合わせて歌ったり、名前を呼び合ったり、手遊びをしたりする。 ・園歌に親しみ、保育者や友達と歌うことを楽しむ。	・お屋さんごっこやお家ごっこなど、保育者の仲立ちのもと大まかなイメージを共有しながら遊ぶ。 ・自分なりにそのものの簡単な性質がわかって試したり、さらに思いついたことをやってみたりして遊ぶ。 ・遊びながら、必要な道具を使ったり、用具を組み替えたりする。 ・心地よい気候の中で、園外の散歩を楽しむ。 ・他のクラスの保育者や職員（用務員・事務員・給食調理員等）と一緒に遊んだり、あいさつや言葉を交わしたりする。 ・園内のいろいろな場所の用途や、そこにあるものがわかり、保育者や友達とその場で遊んだり過ごしたりする。 ・ごっこ遊びなどの中で、友達と簡単な言葉を交わしながら遊ぶ。 ・ハサミやのりなどの道具や、いろいろな素材を使ってかいたりつくったりすることを楽しむ。 ・生活や遊びの中でのできごとを通してイメージを豊かにする。 ・季節の歌や、他のクラスが歌っている歌などに興味を持って、一緒に歌ったり、聞いたりすることを楽しむ。	・園生活のおおまかな流れがわかり、意欲的に生活する。 ・大きくなったことを喜び、進級に期待をもつ。 ・着替えや排泄、持ち物の始末など、身の回りのことを自分でする。 ・ごっこ遊びや鬼ごっこ、かくれんぼなどの集団遊びを通して、保育者や友達と一緒に遊ぶ。 ・順番や交替などがわかり、守ろうとする。 ・3歳児クラスの保育室で、興味のあるものを見つけて遊ぶ。 ・氷や雪など、冬の自然に興味をもち、見たり触れたり体で感じたりする。 ・いろいろな素材や用具を使って、かいたりつくったりする。 ・話したいことを保育者や友達に伝えようとしたり、ごっこ遊びの中で言葉のやりとりを楽しんだりする。 ・いろいろな素材や道具を使ってかいたりつくったりしたものを、自分なりのイメージで見立てる。 ・いろいろな歌に親しみ、友達や保育者と一緒に歌うことを楽しむ。	
環境構成◆援助 ▲		◆それぞれのシンボルマークを決めて、持ち物の場所や椅子などにつけておくことで、自分の居場所や、自分の持ち物の置き場がわかるようにする。 ◆中庭や保育室内など身近なところに、いろいろな遊びを目につきやすいように用意しておくことで、興味をもって遊びだしやすいようにしておく。 ▲身の回りのことについては、1つ1つすることを丁寧に伝えながら一緒にに行い、することをわかりながら安心して取り組めるようにする。 ▲それぞれの思いをその都度汲み取りながら、言葉にしたリスクシンプをとったりして共感的に関わり、保育者が安全基地となるようにする。 ◆絵本については、わかりやすい話や、親しみのある題材のもの、1歳児クラスで楽しんでいたものを用意しておき、興味をもって手に取ったり、新しい保育者と一緒に楽しんだりしやすいようにする。	◆水・砂などの素材や、いろいろな用具などを使って遊ぶことが楽しめるように、子どもの興味・関心に合わせて多様に用意し、用途別にわかりやすく分類しておく。 ▲子どもの発見や面白く感じていることに共感的に関わる。 ▲保育者が満3歳児クラスの保育者や子どもと積極的に混じりながら遊び、興味をもって関わるきっかけとなるようにする。 ▲特に水遊びでは、安全面や衛生面、体調の変化などに留意しながら、心地よく、思う存分楽しめるようにする。 ◆着替えがしやすいように、保護者に子ども自身が着脱しやすい衣服を用意してもらうよう伝えたり、腰掛けられる椅子や敷物などを用意したりしておく。 ▲特に着替えや通園リュックの開閉など、子どもが1人するには少し難しいことは、一緒に手を添えたり、コツを伝えたりして援助しながらも、子ども自身が「自分でできた」と思えるようさり気なく行うようにする。	◆いろいろな動きを活動的に楽しめるように、いろいろな運動用具や遊具を身近に用意したり、安全に楽しめるような場の設定を行ったりする。 ▲運動会などの園内行事にむけての遊びや活動などで、他の学年がしている様子に興味を持てるように工夫する。 ▲身の回りのことを自分でしやすいように、方法やコツを伝えながら励ます。 ▲子どもが楽しんでいることを一緒に遊びながら共感しつつ、さらに楽しくなるような方法を提案する。 ◆子どもたちが歌いやすく、親しみをもち、声が揃いやすい歌を取り入れることで、声が揃っていき楽しさがより味わえるようにする。 ▲いろいろな遊びや活動の中で、子どもたちの印象に残ったり、おもしろさを感じて繰り返したくったりするような言葉やフレーズを拾い、保育者自身も一緒に声を出しながら楽しさを共有する。	▲模倣やごっこ遊びの中で、友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるように仲立ちする。 ▲自分でしようとするができずに泣いたり、甘えてしまわないときは、個々に合わせて細やかに援助することで、自信が持てるようになる。 ◆楽しんでいる遊びにひと工夫加えやすいような遊具や用具を用意しておく。 ▲模倣や見立て・ごっこ遊びの中で、友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように仲立ちする。 ◆布、積み木など、いろいろなものに見立てて場をつくったり、身につけたりできるようなものを多様に用意しておく。 ◆秋の自然に触れられるような場所に散歩に出かけたり、紅葉などの変化を感じられるように同じ道を何度も通ったりする。 ▲散歩の中での子どもの発見を取り上げたり、感じたことを表現する言葉を促したりして、発見や出会いを友達や保育者と一緒に楽しめるようにする。	▲基本的な生活習慣の習得を個々に合わせて援助し、自分でできた喜びを味わうことができるようにする。 ▲順番や交替などの約束を守ることで、遊びがより楽しくなるような援助を行う。 ▲子どもの発想で遊びだす様子を捉え、一緒に遊びながら面白さに共感したり、工夫していることを認めたりして、自分なりに工夫しながら遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ▲子ども同士のやりとりを大切にしながら、遊びの中で簡単なイメージを共有しやすいように仲立ちをして、子ども同士の関わりが深まるようにする。 ▲3歳児クラスの保育室で、2歳児クラスにはない玩具や遊具と一緒に使ってみたり、制服やクレヨンなど3歳児クラスで新たに増える個人の持ち物を知らせたりして、進級が楽しみになるように関わる。 ◆氷や雪などに触れて楽しめるように、気温を見ながらいろいろな容器に水をはっておいたり、冷たさ、温かさをより感じられるように湯を用意したりする。	
食育				保護者支援			
・楽しく、穏やかな雰囲気の中で食事を楽しめるようにする。 ・保育者との信頼関係や、友達関係の深まりにより、食事の時間がより楽しくなるようにするとともに、保育者や友達が美味しそうに食べているものに興味をもって食べてみようとする姿を大いに認め、いろいろな料理を食べてみようとしてくるよう援助する。 ・必要に応じて、食事のマナーについても折に触れて伝えていくようにする。				・今までの成長過程や家庭での様子、保護者の思いを傾聴して把握し、思いに添いながら様子を伝え合うことで、安心して子どもを預けられるようにする。 ・関わり方や生活面での援助の仕方などについて、園での様子を伝えながら必要に応じて伝えていく。 ・子ども自身で着脱しやすい衣服や靴を用意してもらうようにしたり、着替え介助のポイントなどを伝え、子どもが自分の身の回りのことをしようとする姿を支えていけるようにする。 ・進級にあたって、子どもの気持ちの揺れが予想されることや、その理由、どのように支えていくかという見通しを伝えておく。そのことを通して、環境の変化に伴う子どもたちの不安などを共に支えていけるようにする。			